



岡田小学校 令和8年度 学校だより

5月7日発行

ふれあい

[学校の様子→](#)



ちがうって すてき

唱歌「茶つみ」に、夏も近づく八十八夜…という歌詞があります。八十八夜は、立春から数えて88日目にあたり、今年5月2日となります。この時期は、気候が安定し始め、本格的な農作業シーズンの到来を告げる重要な日です。

学校もまた同じ。この1ヶ月は、本格的な教育を進めていくための準備段階として、教室環境、学習規律やルール、人間関係を整え、日々の授業を大切にしながら、学力をつけていく時期になります。

学校は、集団で学ぶところなので、「形をそろえ、心をそろえる」指導も大切にします。岡田小学校では、4つの願い「あいさつ・返事・はきものそろえ・ありがとう」を通して、形をそろえ、心をそろえて、みんなと一緒に学び合う気持ちを高めています。

一方、集団生活の中で、まわりと違うことで、自分に自信がもてなかったり、まわりの目が気になったりする子がいます。きっと教室にいても、そわそわ、びくびくしながら過ごしているのではないのでしょうか。そこで、2つの歌を紹介したいと思います。

チューリップ

さいた さいた チューリップのはなが
ならんだ ならんだ
あか しろ きいろ
どのはなみても きれいだな



世界に一つだけの花

そうさ 僕らは 世界に一つだけの花
一人一人違う種を持つ
その花を咲かせることだけに
一生懸命になればいい

1931年につくられた歌「チューリップ」の作詞者である近藤宮子さんは、「どのはなみても きれいだな」の歌詞に、何色にも、何事にも、あるいは人は誰にでも、よいところがあるので認め合いたい、特に弱い者には目を配りたい、という思いを込めました。2003年につくられた歌「世界に一つだけの花」の作詞者である槇原敬之さんも、一人一人のよさに目を向けた歌詞を書きました。戦前に書かれた童謡と現代の日本のポップスは、メロディーもリズムも全く異なりますが、一輪の花を見て、自分も仲間もかけがえのない大切な存在であることを伝えています。「ちがうって すてき」「ちがうって おもしろい」・・・一人一人、それぞれによいところがあるのです。

(校長 小嶋 正嗣)

子どもの学力向上にむけて

これまで岡田小学校では、子どもの「自己肯定感の育成」を大切にし、授業において自己を見つめる機会をもつことで、自分の得意なこと、不得意なことを受け入れ、次へのよりよい改善に向けて、挑戦しようとする気持ちを育んできました。

その一方で、次のよりよい改善に向けて、何を、どこまで、どうやって学ばよいか、自分が何につまずいているのかが分からない子もいました。毎年、行っている全国標準学力テストの分析によると、岡田小学校の子どもたちは、とても素直すぎるので、授業の中で、分かった気になってしまう傾向にあるようです。また、一旦最後までやり遂げたら、そこで満足してしまい、見直しをしないまま学習を終えてしまうので、ケアレスミスが多いようです。

そこで、子どもの学力向上にむけて、以下のことを大切にしていきたいと思います。

<テーマ>

学習課題を自分事として捉え、進んで学ぶ児童の育成

—基礎基本の定着と積み重ねの実践を通して—



①国語・算数の学習は、学年相応の学力が欠落してしまうと、次の学年で「分からない・できない」が積み重なり、学習への意欲が低下します。まず、国語・算数の授業で、基礎基本の定着のための反復練習を取り入れます。

【実践例】

- ・(国語)漢字小テストやドリルの2回書き込みを行う。音読の反復練習を行う。
- ・(算数)百マス計算やドリルの間違い問題を2回行う。
- ・まとめテストを行う。

②授業で、「書くこと」を重視するため、板書の工夫、ワークシートやノートの活用、模写や試写の時間の確保、ICT機器の活用を取り入れます。

③家庭学習の習慣化を図ります。

【実践例】

- ・連絡帳に、明日の授業の予定や準備を書くようにし、子どもに意識させるようにする。
- ・家庭学習は、「書くこと」を意識したものを出题する。

④配慮の必要な子には、通級教室(たんぽぽ)と連携し、その子に合った内容や量、学び方を検討していきます。また、その子の認知機能、運動機能、社会性を「コグトレ」等を活用しながら育むことで、集団での学習に自信をつけていきます。(保護者の方には、担任より相談させていただきます。)